

# 2025(令和7)年度入学試験問題

## 国語

(注意) 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

盈進高等学校

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「母語」※と「そのほかの言語」のあいだには、ふつう、ずいぶん大きな違いがあるように思われている。その違いのひとつが、ことばを覚えるときに使える時間の量だ。なにか言語を学ぼうと思ったとして、そのaシユンカンから24時間すべてをその言語のために費やせる人はそうそういない。もし仮にそれができたとしても、母語と同じ方法でことばを学ぶとしたら、ずいぶん時間がかかることになる。

文法を学び、よく使う順に単語を覚え、日常会話を知るといふ、ふだん私たちがごくありふれたものとして受けとめている「語学学習」のメソッドは、あるていど大きくなった人間が限られた条件のなかで新しい言語をbコウリツよく学ぶために、これまでその言語を習得した人々が作りあげてきた知恵の結晶だ。なんなら「近道」といってもいい。膨大な文章からcミチビキ出された法則（文法）や例文を覚えていくことで、その言語の基本的ななりたちを理解することができるようになっていくのだから。つまり文法書や教科書は、いわば目的までの最短ルートを示した、近道マップのようなものなのだ。このアイテムさえあれば、①目的の地だけがぼつんと浮かんでいたきみの白地図に、文殊の知恵が加わったといってもいい。

（中略）

②他言語が母語と大きく違うもうひとつの点は、子供時代のような環境を作りづらいところだ。大きくなった私がいきなりロシア語をはじめたからといって、誰も寝る前にロシア語で子守唄をうたってくれようとはしないし、朝から晩まで周りの大人たちがロシア語であやしてくれるわけでもない。それに子供にとって必要なことばと、大人が必要としていることばは、ふつうは分けて考えられている。

A 日本語を母

語とする赤ちゃんが最初に覚えたことばが「まんま」だとして、それはその赤ちゃんにとっては食べものを表す、生きることに直結したとても大切な単語だけれど、他言語者向けの日本語教科書の最初の基礎単語として「まんま」が挙がることは、まずない。大人の使わない幼児語が学習者向けの基礎単語とはならないのは、大人が語学をやるときにはごくふつうのことだと思われる。

子供時代の環境や子供時代に用いる単語を語学学習に組み込むべきか否かは好みが分かれる。子供というものを大人未満の未熟な存在ととらえてしまうのであれば、なにもわざわざ大人の使わない幼児語を覚える必要はないということになるだろうし、母語話者の子供に向けて作られた教材が語学の授業でとりいられると、ばかにされているように感じるといふ人さえいる。だがそうした反発はたいいてい、「子供」という存在に対する誤解からきている。

詩人のアレクサンドル・ブローク（1880～1921）は『絵の具と言葉』（1906年）というエッセイのなかで、「大人の特徴というものは、いいところばかりではぜんぜんない」と書いている。「大人は合理的にものを考え、適度に疑うことを知っていて、その場に応じて状況をふまえて思考することができるけれども、同時にたいがい疲れているし、頭が固いし、賢かしくない。大人には、賢かしさや **B** さが足りないことが多い」と。

語学学習について考えるとき、この「子供のほうがいい」点は多く挙げられる。ものごとに対する興味が尽きず、なんでも自分でやってみたり、新しいことをどんどん吸収することは、語学学習にはもってこいの利点である。しかし「だからといって大人が子供のような言語環境を作ってそこに身をおいたとしても、子供のようになれるとは限らないんじゃないか」と思えるかもしれない。**C**、「なれるとは限らない」というのは、「なれない」ということではない。子供に学ぶところはたくさんあるし、学ぶことはできる。

私がそのことを強く感じたきっかけは、モスクワの文学大学で受けていたフランス語の授業だった。フランス語のマルガリータ先生は、単語暗記や文法説明や練習問題や小テストといったスタンダードな学習もかなりハードにやらせたが、同時にいつも必ず子供がやるような遊び道具を持ってきて、フランス語のなぞなぞやカードゲームで遊ばせたり、子守唄を聴かせたり、子供がよく使う口ぐせや口ごたえの決まり文句などを紹介したりした。私たちはフランスの子供たちがよく使うという口ごたえの言い回しを覚えると嬉うれしくなって、多すぎる宿題にフランス語でぶーぶー文句を言う。マルガリータ先生は「待ってました！」とばかりに、大人が子供を教さえ諭さとす **d**ク **チ**ョウでそれに答える。その一連のやりとりが定番になって、モスクワの中心にある文学大学の教室が、あつというまにフランスの家庭——といっても、**③地球上には存在しないのではないかと思えるほど居心地のいい、想像上の家庭のような雰囲気**になった。

私はそのころ同級生のマーシャという女の子と仲良くなって、大学に頼りんで寮で一緒に暮らすようになっていた。マーシャと二人で帰りながら、私が「ことを学ぶと、子供時代を体験できるみたいで楽しいね」と話すと、マーシャは「世界にはたくさん言語があるんだから、まだまだいくつもの子供時代が体験できるよね」と答え、私たちはほかにはどんな言語の子供時代をどんなふうに過ごしたいかを語りあった。このころマーシャと学校帰りに歩きながら、あるいは寮で料理や洗濯をしながらくりかえし話したテーマのひとつに、「語学学習はどこまで可能か」「原語で作品を楽しめるようになるくらいまでがんばる言語はいくつほしいか」という話題があった。マーシャが「理想をいえば、すべての言語の子供時代を知りたいし、世界じゅうの人が世界じゅうの言語を知るようになればいい」と言っていたのをよく覚えている。あのときの私は

たぶん、いくらなんでもそれは欲張りすぎなんじゃないかというようなことを言った気がするけれど、マルガリータ先生の授業を受けていた私たちは、「新しい言語を習うとは新しい子供時代を知ることだ」という点については、なんの疑問も抱いていなかった。つまりあのころの私たちはそんなふうにして④子供時代を存分に味わい、マルガリータ先生の授業はすごい、楽しい、とは感じていたけれど、それがどんなにすごいことなのかはまだあまりわかっていなかったのだ。

あとになってマルガリータ先生が、それを **D** にやっていたのだと話してくれたことがある。「⑤語学教師はことばの子供時代を作らなければならない」という話だ。マルガリータ先生はレフ・トルストイを例にだして、「子供時代といっても、リアルな子供時代じゃなくていいのよ。早くにお母さんを亡くしたトルストイが思い描いた、明るい光の球体のような理想郷の子供時代——そういう世界を演出することが、語学教師の定めなの」と語った。

そのうち私はロシア語やロシア文学にかまけてフランス語に割ける時間がなくなり、フランス語の授業ではすっかり落ちこぼれてしまったけれど、マルガリータ先生が話してくれた「明るい光の球体のような理想郷の子供時代」という語学教師の夢だけは忘れようがない。それは、「新しい語学をはじめた自分」という存在を全力で祝福してくれる空間を、語学学習のなかに作り出す仕事だ。短期間で試験用の知識を詰め込むだけなら、必ずしもそんなことをする必要はないかもしれないし、遠回りに思えるかもしれない。けれども語学は、いったん覚えたと思っても、長く学んでいるうちに何度も基礎に立ち返る必要がある。記憶したはずのことを忘れて確認したり、新たに得た例外的な知識を基礎と引き比べてみたり。そんなとき、語学をはじめたころの記憶が堅苦しく **E** なものでしかなければ、その場所に戻って考えなおしたり覚えなおしたりするのはつらい作業になってしまう。でも、自分のほんとうの子供時代よりも幸福な思い出に満ちていれば、とくに必要に迫られなくとも思いたくなる。実際、私はいまも当時のフランス語の教材やプリントを大切に e ホカンして、たまに見返しては「フランス語の子供時代」を思いだす。モスクワの教室が突然フランスに飛んでいくようなあの幸福な時間に思いをはせると、行ったこともないフランスで子供時代を過ごしたような気にすらなってくる。いや、フランス語の語学力はたいして育っていないのだから、まだ子供時代のままなのかもしれないけれど。

ロシアで暮らしていた私にとってロシア語はもう少しリアルな「子供時代」で、理想郷とはいえないような困ったことや悲しい現実に直面した記憶もあるけれど、マルガリータ先生のおかげもあって、それが自分の「ことばの子供時代」という感覚が芽生えていたこと自体に意味が

あった。

(奈倉有里『ことばの白地図を歩く 翻訳と魔法のあいだ』による)

※母語…幼児期に最初に習得する言語。たとえば、日本で生まれ育った人にとっては「日本語」が母語となる。

※メソッド…方法。

※文殊の知恵…素晴らしい知恵。

※レフ・トルストイ…ロシアを代表する作家。

問一 aとeのカタカナを漢字に直さない(楷書で大きくていねいに書きなさい)。

問二 A・Cに入る語句の組み合わせとして適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A たとえば C でも イ A また C つまり  
ウ A あるいは C でも エ A そして C つまり

問三 Bに入る四字熟語として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 優柔不断 イ 古今東西 ウ 単純明快 エ 油断大敵

問四 D・Eに入る語句を、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- D ア 一方的 イ 意欲的 ウ 普遍的 エ 意識的  
E ア 感情的 イ 強制的 ウ 典型的 エ 主体的

問五

①「目的地だけがぼつんと浮かんでいたきみの白地図に、文殊の知恵が加わった」とありますが、それを説明した文として適当なもの、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外国語を学ぶ目標はあっても方法がわからなかったとき、その言語を習得してきた人々が作った文法書や教科書で学ぶことで、言語習得への道筋ができること。

イ 外国語を学び始める前に、どこまでできるようになりたいかを明確にし、過去の人々のアドバイスを取り入れて外国語を学ぶと学習効果が高くなること。

ウ 外国語を学ぶときに、すぐ授業を受けるのではなく、まずは信用できる文法書や教科書を手に入れることによって、母語と同じように外国語を習得できること。

エ 一人で学習方法を考えるのではなく、仲間と一緒にどんな教科書や参考書で学ぶのがいいか話し合い、日常生活でも仲間と学び合うことで外国語を習得できること。

問六

②「他言語が母語と大きく違うもうひとつの点」について、筆者の考えを整理した次のノートを見て、あとの問いに答えなさい。

【ノート】

他言語が母語と大きく違うもうひとつの点	
<p style="text-align: center;">母語話者</p> <p>母語話者は、生まれた時から、一日中その言葉にふれることができる</p> <p>↓ 子守唄や、「まんま」のような赤ちゃんにとって</p> <p style="text-align: center;">X (五字)</p> <p>につながる言葉にふれる</p>	<p style="text-align: center;">語学学習者</p> <p>語学学習者は習う言語の幼児語を学ぶことはない</p> <p>↓ 母語話者が過ごす幼少期のような</p> <p style="text-align: center;">Y (二字)</p> <p>を体験することがない</p> <p>背景には「語学学習に子供時代に学ぶ単語は必要ない」という考えがある</p>
<p style="text-align: center;">【筆者の考え】</p> <p>「子供」という存在に対する</p> <p style="text-align: center;">Z (二字)</p> <p>である</p>	<p style="text-align: center;">→</p> <p>語学学習において子供に学ぶ点は多くある</p>

(1) 

X
---

Z
---

 に入る語句を指定された字数で本文中から抜き出しなさい。

(2) 「語学学習において子供に学ぶ点は多くある」とありますが、具体的にはどのような点ですか。その内容を含む一文を本文中から抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問七 「地球上には存在しないのではないかと思えるほど居心地のいい、想像上の家庭のような雰囲気」とありますが、同じ意味で使われている語句を、③より後の本文中から十九字で抜き出しなさい。

問八 ④「子供時代を存分に味わい」とありますが、その説明として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア すべての授業に真剣に取り組むこと。  
イ 子供時代を懐かしく語り合うこと。  
ウ 新しい外国語を楽しく学ぶこと。  
エ 幼いころから外国語に親しむこと。

問九 ⑤「語学教師はことばの子供時代を作らなければいけない」とありますが、マルガリータ先生がそのように考えた理由を、本文中の語句を用いて、八〇字以上一〇〇字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高校二年生の文化祭最終日、わたし（もとしまなおこ 本山奈緒子）は科学部が展示に使っていた物理生物学教室にいた。そして、わたしは科学部の加地君に誘われて、プラネタリウムを見ることになった。

「まあ観てけよ、本山」

「うん」

当たり前のように背うなずいていた。わたしはプラネタリウムを観たかった。ドームの中にある暗闇くらやみや、ちっぼけな人工の星や、加地君の低い声に惹かれていた。ドームに入ると、ランタンみたいな形をした照明が、中央で a 淡く輝いていた。その光を受けて、丸い物体がぼんやりと見えた。あれがプラネタリウムの本体なのだろう。人の上半身くらいの大きさだ。すぐそばに加地君が立っていた。横顔に光が当たって、切れ長の目や、筋の通った鼻や、少し尖とがった頬骨ほおほねがよくわかった。やがて加地君がわたしの視線に気付き、恥はずかしそうに笑った。これはそうとうあがつてるな、とわたしは思った。笑い方がいつもと違っていた。大丈夫かな。失敗しないかな。だいたい加地君にナレーションなんてできるのだろうか。それにしても、加地君がどうしてわたしを誘ったのか不思議な気がした。ナレーションをやるのを恥はずかしがってたわけだから、知り合いのわたしが観ることを、シャイな加地君なら嫌がりそうなものなのに。

小さな天球の中には、十人ほどのお客さんがいた。パイプ椅子いすに b 窮屈きうくつそうに腰かけながら、きよろきよろと辺りを見まわしている。わたしは端っこの方の席に腰を下ろし、ずっと加地君を見ていた。

「じゃあ、始めます」

加地君が言った途端、照明が消え、完全な暗闇が訪れた。自分の手も見えないくらいの闇だった。一年生っぽい女の子たちが、あ、真っ暗だね、ほんとだね、と A 声を出した。その弾んだ気持ちは、たぶんドームの中にいた全員が共有していたと思う。なにかが始まるという、わくわくした感じが、わたしの胸の中にもあった。一分くらいがたち、みんなが少し不安になってきたころ、ぱちりと音がした。そして、わたしたちはいきなり星空の下にいた。

え！ すごい！

もっといい加減なものだと思っていたのに、想像してたのよりもずっと本物っぽい星空が頭上に広がっていた。わたしたちが住む中途半端な都会の夜空なんて比べものにならないくらいきれいだった。

さっきの女の子たちだけじゃなくて、その場にいたほとんど全員が、

「うわあ！」

と声を上げた。

わたしもきつと、

「うわあ！」

と言っていたと思う。

やがて咳払いの音がした。加地君だった。

「今からプラネタリウムの上映を始めます。このプラネタリウムは、僕たち科学部が、文化祭のために一年がかりで作りました。まだ完全にはできあがってなくて、星の並びも再現しきれませんが、どうかお楽しみください」

加地君の低い声が闇に響いた。①暗闇で聞くと、声だけでその人の持つなにかがはつきりとわかる。髪型や、顔や、体つきや……そういったものにごまかされてしまうものが、闇の中だからこそ浮かび上がる。天球に広がる星空と同じだった。昼間は太陽の光で見えないけれど、ひとたび日が落ちれば、くつきりと姿を現すのだった。

「今、みなさんの頭上に広がっているのは、ちょうどこの時期の、八時くらいの夜空です。夏の星座が退場し、秋の星座が姿を現しています。まず、去りゆく夏の星座を説明します」

赤いポインターが空に現れた。二、三回せわしなく動いたあと、明るい星を指す。

「これが琴座のベガという星です。七夕伝説の織り姫です。織り姫らしい明るい星ですね。北半球では一番明るい星です。そしてこちらが、彦星に当たる星です。このふたつのあいだにある川のような星の集まりが天の川です」

なかなか見事なナレーターぶりだった。ドームの中に、彼の低い声が、穏やかに響き、だんだんと満ちていった。耳だけではなくて、体中で、

わたしは彼の声を聞いていた。彼がとても臆病おくびょうなことがわかったし、けれど強い意志を持っていることもわかった。そのふたつの、相反するものが、彼のほっそりした体の中でせめぎ合っていることが感じられた。

ああ、確かに加地君はそういう人だ。幼いころの記憶よみがえが蘇よみがえってきた。

加地君はきつと生きることを怖がっている。未来に怯おびえている。わたしたちがみんな、そうであるように。けれど加地君は同時に、世界やら未来やら運命やらに屈しないなにかも持っている。とても辛く苦しい状況に陥ったとき、加地君はきつと泣くだろう。人前ではなく、誰もいない部屋でたくさん泣くのだろう。けれど、泣き終わったあとは、辛く苦しい状況をどうかかしようとする。簡単には諦あきらめないし、逃げない。

小学校五年生のとき、加地君が溝に落ちたことがあった。とても深い溝で、十一歳の子供にとつては、ちよつと洒落しやれにならない事故だった。溝に落ちた加地君は、しばらくその底で泣いていた。自力で這はい上がることを諦めていた。それでも、彼は結局、自力で這い上がろうとした。今までも、今も、そしてこれからも、彼はあんなふうに生きていくのだろう。

闇の中、わたしは自分の右手を意識した。

小学校五年生のわたしがそこにいた。

ゆっくりと星空は動いていった。きらびやかだった夏の星座は西の地平線へと傾き、少し **B** 秋の星々が昇ってくる。それにしてもおもしろいものだ。夏の星座は明るい星が多いし、形もわかりやすい。なのに、秋はいきなり地味になる。偶然なのだろうけれど、季節のイメージとよく合っていた。

「ここに星が四つ、ボックス状に並んでいますね。これがペガサス座、つまり天馬のd胴たね体になります。こっちが頭で、逆方向の足に見える星の並びは、実はアンドロメダ座という別の星座です。そのアンドロメダ座の真ん中くらいに、ぼんやりしたものがあります。この辺りです」

ポインターの指す先で、なにかが淡く光っていた。

「これが有名なアンドロメダ大星雲です。僕たちの住む銀河系から一番近い銀河で、つまりお隣さんというわけです。こちらだと空が明るすぎて無理ですが、ちよつと田舎の方に行けば、このプラネタリウムと同じように、肉眼でも見つけることができます」

②このころには、わたしはもう彼の説明をあまり熱心に聞いていなかった。ただ彼の声の響きに、流れに、e浸ひっていた。それだけですごく心が落ち着いた。そして少しびっくりしてもいた。こんな存在が、こんな近くにいたのだ。声からわかる加地君の強さ、弱さ、不安、決意……そ

ういうなにもかもにわたしははっきりと惹かれていた。誰も彼もがやたらと惚れっぽいギリシャ神話の登場人物のように、わたしの心も大きく動こうとしていたのだ。

「さて、③最後に予定外のプログラムですが、牡羊座の説明をします」

あ、と思った。

「牡羊座はわたしの星座だった。」

本当に予定外だったらしく、さっきの坊主頭の男の子が、「おい、加地、なんだよ」と慌てて囁く声が聞こえてきた。星空が右に左に動き、そうしてしばらく迷ったあと、ゆっくりとまわって、一分くらいしてからとまった。

加地君の声がふたたび天球内に響いた。

「秋の夜空に戻ってきました。牡羊座は見つけにくい星座です。だいたいこの辺りにあるんですが、どうしてもこれが牡羊座なのかすぐにはわかりませんよね」

自分の星座だけけれど、実際に星の並びを見るのは初めてだった。そしてそのあまりの地味さに、わたしはがっかりした。明るい星なんてひとつもないし、どう星を繋げてても、牡羊の形にはならない。加地君がポインターで示してくれた星の並びは、ただのかぎ針のようにしか見えなかった。

どうせなら、牡牛座くらい派手な星座がよかった。

中盤くらいで加地君が説明してくれた牡牛座は、明るい星がいくつもあつたし、形もわかりやすかつたし、肩の辺りには有名な昴があつたのだ。

わたしの心を見透かしたように、加地君が言った。

「みなさんの中には、牡羊座の方がいて、がっかりしてるかもしれないね。確かに牡羊座は地味な星座です。でも、実はすごい星座なんです。ギリシャ神話では、牡羊座というのは黄金の羊のことです。そして、ギリシャ神話でもっとも偉い神様である、ゼウスの化身であるとも言われています。たとえば見かけは地味でも、本当はすごい星座なんです」

このとき、加地君は④だったひとりに向かって話しかけていた。なぜならプラネタリウムのうっすらとした光に浮かび上がる加地君の輪郭は、

明らかにわたしの方を向いていたからだ。彼はわたしが牡羊座だと知ってるんだ。

「あと、これは本当かどうかわかりませんが、牡羊座は富の象徴なので、牡羊座の人は将来大金持ちになれると言われてます」

ちよつと冗談っぽい感じで、加地君はそう言った。わたし牡羊座だったらよかつたなあ、と誰かの呟く声つぶやが聞こえた。くすくす笑い出してしまいそうになるのを堪えながら、わたしは同時に誇らしい気持ちになっていた。わたしは地味だけれど、本当はすぐくて、将来お金持ちになれる牡羊座なのだ。

「牡羊座にはもうひとつ、すばらしい特徴があります。実は牡羊座は年に一度、大きな流星群の基点になるんです。流星群というのは、流れ星が短い期間にいっぱい流れるってことです。ただ、牡羊座流星群は昼間に流れるので、目には見えません。でも、僕たちの目には見えてないだけで、本当はものすごくたくさん星が流れているんです。僕は知ってます。たとえ星座自体が地味でも、流星群は見えなくても、そのすばらしさを僕はちゃんと知ってます」

わたしはよく、地味な方だと言われる。おとなしいね本山さんは、という感じで。小学校のころから一緒なので、もちろん加地君はそんなわたしの性格を知っているはずだ。加地君はなにを言いたいのだろうか……。

「牡羊座流星群がどういふふうに流れるのか、みなさんにお見せします。この流れ星マシンも僕たちの手作りです。僕と……僕の友達が作りしました。今回が初稼働はつかどうなのでうまくいくかどうかわかりませんが、うまくいくことを祈ってください」

その直後、ものすごいことが起きた。天球を無数の流れ星が埋め尽くしたのだ。ひゅんひゅんと、音さえ聞こえてきそうな勢いで、星がいくつも流れていった。それは本当に見事な光景だった。ドームの中にいた誰もが、うわあ、と声を上げた。もちろんわたしも上げていた。

やがて加地君がしゃがみ込んで腕を伸ばすと、星の流れ出す中心が牡羊座に移った。どうやら加地君が機械の方向を変えたらしい。牡羊座から、わたしの星座から、美しい星々がどんどん溢れ出す。天球を埋め尽くす。

「ここで見えない牡羊座流星群です。昼間なので見えなくても、本当はこういうすばらしい光景があるんです。たとえ見えなくても、こんなふうにし美しいって、僕はちゃんと知ってます」

顔が熱くなってきた。

※坊主頭の男の子…加地君と同じ科学部の生徒。

（橋本紡『流れ星が消えないうちに』による）

問一 ــــــــــــــــ a s e の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 ــــــــــــــــ A ــــــــــــــــ B ــــــــــــــــ に入る語句を、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A ア おびえた                    イ 緊張した                    ウ 落ち着いた                    エ はしゃいだ
- B ア 明るい                    イ 寂しい                    ウ 重い                    エ うるさい

問三 ــــــــــــــــ ①「暗闇で聞くと、声だけでその人の持つなにかがはっきりとわかる」とありますが、これはどういうことですか。その説明として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 暗闇の中で声だけ聞いていると、それがその人のすべてであるという錯覚を覚えるということ。
- イ 暗闇の中でスポットライトが当たること、その人の輪郭が鮮明に浮かび上がるということ。
- ウ 暗闇の中で声だけを聞くことで、その人の性格や感情を敏感に感じる事ができるということ。
- エ 暗闇の中では見えなかったものが、星の明かりによってわずかながら見えてくるということ。

問四 ــــــــــــــــ ②「このころには、わたしはもう彼の説明をあまり熱心に聞いていなかった」とありますが、そのときのわたしの様子として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A わたしは地味な秋の星座にがっかりしてしまい、加地君の説明が耳に入らなくなってしまっている。
- イ わたしは自分自身の加地君に対する好意に気づき、加地君の説明より加地君自身に意識を集中している。
- ウ 加地君の声が心地よくて意識が音だけに集中してしまい、加地君の説明が全く頭に入らなくなっている。
- エ 加地君の緊張がわたしにも伝わってきたことで、加地君の説明を聞く余裕がなくなってしまうている。

## 問五

③ 「最後に予定外のプログラムですが、牡羊座の説明をします」とありますが、その理由として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分も牡牛座くらい派手な星座ならよかったと思っっているわたしに対して、牡羊座は地味ではないと教えるため。
- イ 星座の知識がない坊主頭の男の子に対して、地味な牡羊座にもとても興味深いエピソードがあることを紹介するため。
- ウ プラネタリウムを覗に來ている人たちに対して、地味なようで実は派手な牡羊座に関する知識をひけらかすため。
- エ 地味でおとなしいと思っっているわたしに対して、本当はいい面をたくさん持っっていてとても魅力的な人だと伝えるため。

## 問六

④ 「たったひとりに向かって話しかけていた」とありますが、「たったひとり」という表現の効果として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「たったひとり」とは「加地君」のことを表し、表現を変えることで、加地君が胸を痛める場面をより切実にする効果がある。
- イ 「たったひとり」とは「わたし」のことを表し、表現を変えることで、わたしが胸を打たれる場面をより印象的にする効果がある。
- ウ 「たったひとり」とは「加地君」のことを表し、表現を変えることで、加地君が胸をなでおろす場面をより共感させる効果がある。
- エ 「たったひとり」とは「わたし」のことを表し、表現を変えることで、わたしの胸がふさがれる場面をより深刻にする効果がある。

問七 この作品を読んだ生徒たちが読書交流会を開きました。次の【会話】と【回想場面】を読み、あとの問いに答えなさい。

【会話】

生徒A プラネタリウムの場面なんだけど、作品の後半にこんな回想場面があったよ。ここを読んで、はじめて加地君の緊張した理由がわかったよ。

生徒B そうだね。 X (七字) の相手に Y (四字) をするんだもんね。

生徒C それに、加地君と川嶋君※かわしまの強い友情も伝わってくるよね。このプラネタリウムの機械を完成させるために手伝ってくれて、すごく感謝しているから、ナレーションで「僕と……僕の友達が作りました。」って言ったんだらうね。この回想場面で川嶋君も感動していることからお互いの気持ちがわかるよね。

生徒A この回想場面では語り手が「わたし（本山奈緒子）」から「僕（川嶋）」に変わっているね。

生徒B 川嶋君の視点でこのプラネタリウムの場面を読むことで、わたしが物理生物学教室に来たのは Z になっていた。川嶋君の Y のために、周りが上手にサポートしていたんだね。

※川嶋…加地と同じクラスと同級生。文化祭二日前の夜、プラネタリウムを完成させるために加地を手伝った。

【回想場面】

高二の文化祭――。

加地に頼まれたことを、僕はすぐさま実行に移した。春日貴子に事情を話すと、彼女はあっさり協力を承諾してくれた。というか、途中でら春日の方が乗り気になってどんどん話を進めていった。

「六年間の片思いか」

春日はなぜか、夢見るように言ったものだった。

「いいな、そういうのって」

「おまえが片思いされてるわけじゃないだろう」

「つまらないこと言うね、川嶋って」

(中略)

とにかく、春日の協力によって、計画は順調に進んだ。

文化祭の最終日、春日は適当な理由をつけて、奈緒子を物理生物学教室に呼び出した。もちろん僕は様子を見に行った。覗きのぞきをやってるみたいで少し気が引けたけれど、やっぱりことの成り行きが気になったからだ。

(中略)

やがて加地がドームの中から出てきた。ものすごく緊張しているのがわかった。

(中略)

やがて加地が僕の方をちらりと見てきた。

「牡羊座流星群がどういふふう流れるのか、みなさんにお見せします。この流れ星マシンも僕たちの手作りです。僕と……僕の友達が作りました。今回が初稼働なのでうまくいくかどうかわかりませんが、うまくいくことを祈ってください」

友達、と加地は言った。

僕のことを友達と。

その直後、僕たちの頭上をいきなり星がひゅんひゅんと流れ出した。自分で作った機械なのに、僕はびっくりした。作ったあと一度動かしていたのに、それでも驚いた。とにかく、ものすごい流れ星だった。ドームのあちこちから歓声が上がリ、僕はたまらなくいい気持ちになった。僕と加地で、あの機械を作ったんだぜ。僕たちの共作なんだ。わき上がる歓声は、僕たちへの賞賛だった。

僕と同じように気持ちが高揚したのか、加地は予定にない言葉まで口にしていた。

「ここで見えない牡羊座流星群です。昼間なので見えなくても、本当はこういうすばらしい光景があるんです。たとえ見えなくても、こんなふうに美しいって、僕はちゃんと知ってます」

見事なまでの、愛の告白だった。

※春日貴子…わたし（本山奈緒子）と仲がいい同級生。

(1) 

X
---

・

Y
---

に入る語句を、指定された字数で【回想場面】から抜き出しなさい。

(2) 

Z
---

に入る語句として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 偶然ではなく、川嶋君と春日さんが呼び出してきてくれたこと

イ 偶然だったけれど、春日さんが上手く誘ってきてくれたこと

ウ 偶然だったけれど、加地君の機転で何とか引き留めたこと

エ 偶然ではなく、加地君が事前にわたしを呼び出していたこと

☐ ③ 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、忠明ただあきといふ検非違使けびあしありけり。若男わかしらにてありける時、清水きよみずの橋殿はしどのにして京童部きやうわらはべといさかひをしけり。京童部きやうわらはべ、刀やいばを抜ぬて忠明ただあきを立籠たてこめ

て①殺ころさむとしければ、忠明ただあきも刀やいばを抜ぬて御堂みどうの方かた様に逃にぐるに、御堂みどうの東あづまのつまに、京童部きやうわらはべ②あまた立たてむかひければ、そのかたへにえにげずし

て、③部しとみのものとありけるを取とりて、脇わきにはさみて、前の谷ちのやに④をどり落おるに、部しとみのものとかけしぶかれて、谷底やちに鳥とりの aあるやうにやうやく落おち

入いりければ、そこより逃にげ去いにけり。京童部きやうわらはべは谷やを見下みろして⑤あさましがりてなむ立たち並なみで見ける。

忠明、京童部の刀を抜て⑥立たち向むける時、御堂の方みどうに向むて、「観音助くわんおんすけけたまへ」と申まうければ、「bびとへへにこれそのゆるなり」となむ思おもひ

『今昔物語集』による

※検非違使…京都の治安維持に当たった職。今の警察官や裁判官にあたる仕事をする。

※清水…京都市にある清水寺のこと。

※京童部…京の市中の若者たち。素行が悪いとされる。

※いさかひ…けんか。言い争い。

※立籠めて…取り囲んで。

※御堂の方様に…清水寺本堂の方向に。

※つま…はし。へり。

※えにげずして…逃げる事ができないで

※かぜしぶかれて…風がとどこおって。

※去に…行ってしまふ。

問一 ــــــــــــــــــــــــ a 「あるやうに」、 b 「ひとへに」の読みを現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 ــــــــــــــــ ①「殺さむとしければ」、②「あまた立てむかひければ」の現代語訳として適当なものを、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「殺さむとしければ」

ア 殺すことができなかったので

イ もし殺すはずならば

ウ 殺すところだったので

エ 殺そうとしたので

②「あまた立てむかひければ」

ア たくさん立って向かいあったので

イ 一人立ち向かっていったので

ウ 新しく敵が向かってきたので

エ まったく立ち向かわなかったので

問三

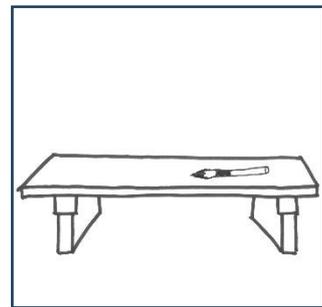
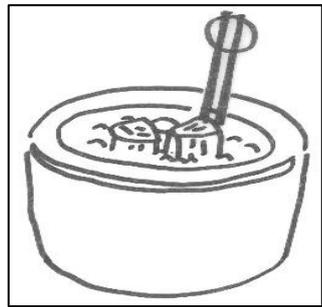
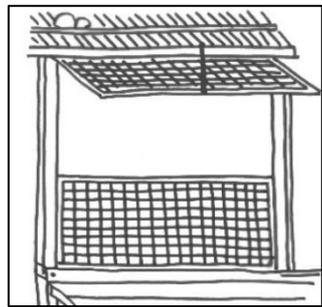
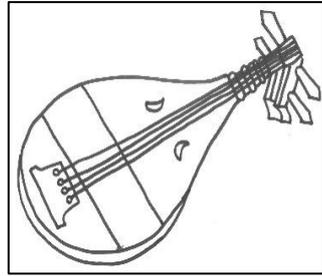
③「葎」とありますが、本文の内容から「葎」として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア

イ

ウ

エ



問四

④「をどり落る」、⑥「立向ける」の主語として適当なものを、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 忠明

イ 京童部

ウ 観音

エ 作者

問五

⑦に入る語句として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア けら

イ けり

ウ ける

エ けれ

問六

⑤「あさましがりて」とは「驚いて」という意味ですが、京童部たちはなぜ驚いたのですか。その理由を二十五字以上三十五字以

内で答えなさい。

問七 次の会話は、本文について授業で話し合ったときの内容の一部です。あとの問いに答えなさい。

生徒 先生、まさにこの話は「清水の **A** から飛び降りる」という慣用句を表していますね。

先生 そうですね。清水寺に行ってみたことがありますか。実際に清水の **A** は地上約十三メートル、四階立てのビルに相当します。

「清水の **A** から飛び降りる」はどういう意味で使われているか知っていますか。

生徒 はい。 **B** で使われています。

生徒 そんなに高い清水の **A** から飛び降りるからこそ、 **C** とお願いをしたのですね。そして助かった。

先生 そうだね。祈願をしたからこそ助かった。『今昔物語集』の中には今回のような仏教説話が含まれていて、わかりやすい文体で人々に信仰を広める役割もしていました。この他にも世俗的な話も入っていて『今昔物語集』に影響を受けた近代作家もいます。『羅生門』『鼻』といった作品を作り上げた近代作家を知っていますか。

生徒 はい。 **D** です。高校の教科書では『羅生門』を学ぶと兄が言っていました。古文の素材をどのように近代小説に作り上げているのか、今から楽しみです。

(1) **A** に入ることばを漢字二字で答えなさい。

(2) **B** には「清水の **A** から飛び降りる」の意味が入ります。適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 思いきって大きな決断をするという意味

イ 願いをかなえるために努力をするという意味

ウ 失敗しても改善することで成功に近づくという意味

エ 人生の幸せや不幸せは予測ができないという意味

(3) Cに入る適切な語句を本文中から七字で抜き出して答えなさい（ただし、句読点は含みません）。

(4) Dに入る近代作家として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 太宰治                   イ 夏目漱石                   ウ 島崎藤村                   エ 芥川龍之介